

「自宅でも生活できる」が理想

自宅の損傷が少なかった場合は、避難所へ行かず自力で生活が続けられるよう、特に備えておきたい自助の一部を紹介します。

食料・飲料は3日以上を

避難所物資は非常用です。全ての方に行き渡るとは限りません。食料・飲料は必ず家族の人数分用意しておきましょう。

- 1人1日3リットルを目安に3日以上の飲料水
- 3日以上以上の食料としてご飯（アルファ化米など）・ビスケット・チョコレート・乾パンなどの非常食
- 便袋・トイレットペーパー・ティッシュペーパー・マッチ・ろうそく・カセットコンロなど



出す時のストレスはできるだけ少なく 便袋の備えは必須です

出したい時に、水が使えずいつものようにトイレが使えない、仮設トイレも大混雑、という状況はとても苦痛です。トイレに関するストレスを少しでも減らすため、各家庭で便袋を必ず常備しましょう。便袋は、高速吸水シートタイプや使用後に凝固剤を入れるタイプが主流です。これらは、ごみ収集が再開した時点で燃えるごみとして出すことができます。

住宅の耐震強度を上げて自宅倒壊を防ぎましょう

住宅の耐震強度を上げれば自宅倒壊の可能性が低くなります。また、家屋の倒壊により緊急車両が通れなくなることも少なくなります。一定の住宅に対し、耐震診断・耐震改修費用の補助制度もありますので、ぜひ活用ください。



昭和56年6月より前に建築工事に着手した2階建て以下の木造住宅などが対象。申請条件などの詳細は、都市計画課（☎235・9392）へ。

▲凝固剤タイプ

凝固剤をかけて固めるもの



▲高速吸水シートタイプ

広げるだけで使用でき、使用後はそのまま捨てられる。便袋と吸水シートが一体になったもの



家の中の安全対策はしっかりと

自宅で生活を送るためには、自分自身がけがをしないことが重要です。

家具が転倒しないよう、壁に固定する。



窓ガラスには飛散防止フィルムを貼る。



部屋の出入り口や通路に物を置かない。



寝室や子ども部屋にはできるだけ家具を置かない。置く場合は背の低い家具など。



日頃から避難所や家の特性をチェック

自宅近くの避難所をチェックしておきましょう。また自宅の立地条件や特性などで、どんな被災の恐れがあるのか、日頃からシナリオを考えておくことも重要です。いざという時は、行政からの発令を待つ必要はありません。危険だと思ったら自分の判断で早めに避難してください。



▲市が配布する防災ガイドブック

防災ラジオが3000円に

荒天時や雨戸を閉めた状態でも確実に防災行政無線情報や緊急情報を得ることができる防災ラジオ。販売価格が5000円から3000円になりました。この機会にぜひご利用ください。

▼価格 3000円（税込み）

▼通信料 無料

▼申し込み 直接または電話で危機管理課へ

▼その他 すでに5000円で購入した方については、差額相当分の防災備蓄物品を順次送付します。詳細は、危機管理課へお問い合わせください。



▲直近の防災情報は聞き直しができる

一人ひとりの意識と心掛けが、自分と大切な人を守ります

公助には限界があることが近年の教訓で分かっています。災害発生後には、ライフラインが途絶え、消防車や救急車もすぐに動けないという事態も想定されます。また、職員自身も被災しますので、どれくらいの人数が参集できるのかも分かりません。

東日本大震災クラスの災害が海老名を襲った時にも、市は「日頃からこういう体制を取っているから大丈夫です」と胸を張って皆さんに言えるよう、これからも各種取り組みの充実を図りたいと思います。

市は2～5ページで紹介した取り組みのほかにも、災害発生時に被災状況を視覚的に把握するための防災カメラや、災害時燃料備蓄施設などの整備をしています。併せて、職員や地域に向けた各種訓練も継続して行い、災害対応能力の強化を目指しています。

あらためて市民の皆さんにお願いしたいのが日頃の備えです。一人ひとりの意識と心掛けが自分や大切な家族の命を守ることにもつながります。人命救助が優先され、公助の手が届かない可能性のある最初の3日間には自分自身で過ごせる覚悟と準備をお願いします。皆さんの協力をお願いします。



宮台健治
市長室危機管理担当部長併消防本部参事